

平成20年度第3回機械工学教育FD/IT活用研究委員会議事概要

- I. 日 時： 平成20年9月1日（金） 午後5時から午後8時
- II. 会 場： アルカディア市ヶ谷（私学会館）
- III. 出席者： 曾我部委員長、青木委員、田中委員、田辺各委員、
井端事務局長、森下、恩田

IV. 議事概要

1. 機械工学における学士力について

委員長がまとめた以下の5項目の「機械工学における学士力」（第1案）について、配布された「土木工学系の学士力」も参考に、詳細な検討を行った。

機械工学における学士力（第1案）

- 1) 身の回りや社会に対し役に立つ新たな機構や機器等を発想する能力。
- 2) 1) で発想した機構や機器に対し、自然科学の諸原理を活用して解析・統合し、安全性や倫理的視点到配慮しながら、実際に作動する機械として具現化するための物理的・論理的思考力。
- 3) 2) で具現化された機械を製作・製品化するための設計・生産技術に関する知識と能力。
- 4) 機械製品の設計・運用上で生ずる様々な問題に対し、機械工学や情報技術を用いて問題を解決できる能力。
- 5) これらを達成していく上で必要なコミュニケーション能力を十分に備えていること。

その結果、「機械工学における学士力」として以下の4項目とすることになった。

機械工学における学士力

- 1) 安全性や倫理性に配慮しながら、自然と人間に有益な機械およびシステムを構想することができる。
- 2) 力学系、材料系、制御技術系、情報技術系等の専門知識を理解し、機械およびシステムの設計に活用できる。
- 3) 生産・加工等の専門知識を理解し、機械およびシステムの製造に活用できる。
- 4) 機械およびシステムの運用・管理上で生ずる問題を認識し、取り組むことができる。

2. 補足説明

この機械工学における学士力の理解を容易にするため、各項目の簡単な補足説明を委員長が作成し、9月12日ごろまでに各委員に配信し、メール会議で9月20日ごろまでに、補足説明のついた「機械工学における学士力」を完成させることとなった。事務局では、補足説明のついた「機械工学における学士力」の内容を各大学の関係者に配信して、広く意見を聞くこととなった。

3. 社会の反応

また、各委員はここでまとめた「機械工学における学士力」について、個別に社会の反応を聞き、その結果を次回の委員会で報告することとなった。

次回の委員会は、10月3日（金）17:00～19:00（予定）とする。